

「はっち」は八戸の新しい魅力を創り出すところ。
いろいろな得意分野の人たちが「はっち」に集い、
まちの歴史や伝統を大事に想いながら、
新しい価値を生み出していける・・・
そんな「はっち」のおいし～い発明を、
「はちみつ」は少しずつご紹介していきます。
次号からは大智に生まれ変わります。



はっちリトルプレス[はちみつ] vol.1.3
発行：八戸市 まちづくり文化観光部 八戸ポータルミュージアム開設準備室
TEL:0178-43-9579
Email:hacchi@city.hachinohe.aomori.jp

はっちオープニング特別事業
ダンスが八戸を
元気にする!?

山田珠実さんプロフィール
振付家・ダンサー。早稲田大学で心理学を学んだ後渡欧し、各地でダンサーとして研鑽を積む。帰国後は長久寿文化の家、明治安田生命エイブルアートオンステージ等の振付作品を発表するほか、小学校、高齢者施設等においてもワークショップを行う。ワークショップのシリーズにDance&People主催による「みる、きく、かかわる」等。愛知道徳大学非常勤講師。

おかあさん▶こども

おかしのおかあさんを訪ねて。

おかしがこどもとすれば、その型はおかあさん。
安くて、おいしくて、かわいいおかしが生まれるのは、
おかあさんのおかげです。
おかしを生み出す「母なる型」を訪ねて街を歩いてみませんか?
「ものづくり」を大きなテーマとする「はっち」からの提案です。



柴幸菓子舗のらくがん
廿三日町、神明宮となりの老舗和菓子店。
創業時から変わらない味のらくがん菊。
1個 250円。
八戸市廿三日町 24 番地
0178-22-4030



あんどう鯛焼店の鯛焼き
初代から引き継がれる45年変わらぬ味。
鯛焼きの型は30年ぐらいついてます。
1個100円。
八戸市八日町 3 番地
0178-22-3080



みな実のワッフル

南郷産のえごまを使ったワッフル。
ほかにさくらんぼ、はちみつ、
おからなどの味があります。
1個150円。

八戸市三日町 18 番地
北山ビル1F
0178-47-4373



たつみやの たこ焼

関東風たこ焼。
外はカリカリ、中はトロリ。
6個入 300円。
八戸市十三日町 16 番地 チーノ1F
0178-46-3340



上館煎餅店の南部せんべい

八戸流ごませんべいは、
ごまがびっしり。
16枚入り 300円。
八戸市大字類家字鶴手下 1-8
0178-22-4358



スウィートピーチのマドレーヌ

レモンとバナナのしっとりマドレーヌ。
1個130円。
八戸市六日町 22 番地 モリカビル1F
0178-24-5501



仕上げる道具「からたちのトゲ」

「若い頃、早朝の長者山で八戸えんぶり奉納振りを見ていて、突然、イマジネーションが電流のように体中を走り抜けた。」——
紙人形作家の高橋寛子さんは30年以上前の人形作りの始まりをそう振り返ってくれた。八戸市鮫町にある自宅、自称「ぼう魔」が人形作りのアトリエ。

書、執筆、絵画、写真など高橋さんの豊かな表現世界と洗練された審美眼で設けられた端正な空間に心いやされる。
高橋さんは現在「はっち」の観光展示の作品として七体の紙人形の製作に取り組んでいる。今にも躍り出しそうな作品たちと、美しい展示演出により、高橋さんのえんぶりのへの「想い」が「はっち」内に常設で表現される。

はっち観光展示事業

繊細な仕上がりを支える高橋さん独自の「こより」、和紙を素早く直立するほどに縫う、専用の部材として形を変えていく。「からたちのトゲ」は和紙とも相性が良く、知人に呼びかけて集めた貴重な職人の道具、驚くべきは、寒さを凌いで舞う太夫の「着崩れ」を表現するために、綿と糸で幾重にも丁寧に巻き重ねているところ。決して部品の作り置きはせず、一体一たび口から作り仕上げていく、人形ごとに「魂を吹き込んでいくこと」が高橋さんの「えんぶりの祈り」の表現なのである。



高橋寛子さんプロフィール
紙人形作家。1945年八戸市生まれ。故道岡南邸に書を師事。画家・詩人としても数々の受賞歴を持ち、平成16年冬季団体には「紙人形作家」を皇室献上。書、執筆、絵画、そして人形のいずれの作品も、その繊細な感覚と作風は、県内外から高い評価を受けている。



まちを愛し、えんぶりに魅かれ
凛として人形を紡ぐひと。

はちみつインタビュー②高橋寛子さん

扉を開けるときのドキドキ感。そこに佇む人生との出会い。
3つの横丁仮想シアターで繰り広げられたアートな夜。



Program 1. 横丁オンリーユシアター「扉の向こう」

9月3日・4日・10日・11日の4日間、横丁に宛ち3つの仮想シアターが出現し、ダンス・落語・芝居をハシゴするアートプログラム「横丁オンリーユシアター」が開催されました。空き店舗とはいえ横丁らしさが生々しく残る空間を舞台に、5組のアーティストによる「書き下ろし」のパフォーマンスが展開され、数多くの来場者を魅了しました。懐かしく、刺激的な横丁の横顔を映し出したこのプログラムは、「アサヒアートフェスティバル(アサヒビル芸術文化財団助成事業)」の参加事業として今年2回目の開催。



シアター1「ダンス小屋」@玉番街
出演アーティスト：ほうほう堂・斉藤英治
横丁でのさまざまな人生の断片を2組のコンテンポラリーダンサーが表現。衝撃的ともいえるダイナミックな熱演に何度も足を運ぶダンスファンや、初ダンス鑑賞のビジネスマンなど、それぞれが感動と愛を持ち帰るものとなりました。



シアター2「落語小屋」@たぬき小路
出演アーティスト：大地 球
八戸市在住の落語愛好家、大地球さんによる4日間、全28公演の落語パフォーマンス。横丁をテーマに、毎回異なるストーリーが語られ、その独特の語りと迫力が多くを魅了。親子での来場者もありました。



シアター3「芝居小屋」@長横町一丁目プラザ
出演アーティスト：M & B・十日市秀悦
かつて映画館が林立していた長横町を舞台に、八戸市在住のM & Bと、「イザバのカチャ」で活躍中の十日市秀悦さんの2組が独創的なパフォーマンスを展開。横丁で生まれ育った十日市さんの「十日市食堂の出前組」は爆笑の連続。今回のために結成されたM & Bさんの芝居「ひどい日」では、サラリーマンの悲哀が多くの共感を誘いました。



Program 2. へえへえウォーキングツアー「横丁編」

横丁でお店を営む方々が培ってきた知恵や技、「へえ」とうなるたくなるお話を聴けるナイトウォーキングツアー。横丁のディープな魅力と出会いを楽しんでいました。
●協力店舗(順不同・敬称略)
・ごめ(八戸昭和通り)・みのり(鷹匠小路)
・Namaste(ハローモ二カ横町)
・プリンス(長横町れんざ街)
ご協力いただきました店舗の皆さん、ありがとうございました!



伝統から新進気鋭まで、 八戸の人・技・材をつなぐ 「ものづくりスタジオ」。

はっちの2階、3階、4階に“屋台”のように
点在する「ものづくりスタジオ」は、
八戸のものづくりの伝統継承と
新たな価値創造がテーマのアトリエショップです。
只今オープンに向けて鋭意準備中の
10作家をちらりとご紹介します。



若き野菜ソムリエがつくる ジュース & スイーツ

照井美由樹さん
野菜ソムリエ、ベジフルビューティーアドバイザー
照井さんによる地元野菜 & フルーツを使用したフレッシュジュースや果実酢ドリンクの販売。健康と美容を考えたスタイリッシュなスイーツも。



郷土の食文化と食育を 楽しむ世代間交流の広場

中村雅子さん
地元食文化の伝承者のひとり「まさちゃん」と中村雅子さん。主宰する「ふるさとの味倶楽部」とともに、「ワンコインランチ」や「キッズ食育スクール」を遊び心たっぷりに展開。



季節の産物を取り入れた 安心でおいしい健康食

赤坂美千子さん
八戸近隣の良質で安全な農産品の生産者とのコラボでつくる「地産地消のおいしい健康食」を提供。お土産品やお取り寄せ品の開発と合わせて、地域の食を全国発信。



みなとまち八戸発の オンリーワンな新名物開発

特定非営利活動法人 ACTY
「八戸うみねこバクダン」をヒットさせたACTYが、うみねこシリーズ第2弾「八戸うみねこの卵揚げ」を開発。見てビックリ、食べてナットクの「うまさ」を提供してくれます。